

会 議 報 告 書

会議名	第15回 第2次 21世紀矢板市総合計画 策定検討委員会
日 時	平成23年1月27日(木) 午後7時00分～8時30分
場 所	市役所 3階 第一委員会室
出席者	市 只木秘書政策室長 鈴木政策班長 政策班 赤羽主幹、和田副主幹、手塚主査(記録) 策定委員 9名(別紙名簿のとおり)

1 開 会 19:00

開会及び資料の確認

会長あいさつ

みなさん、お寒い中お疲れ様でございます。
去年の夏は大変暑くて、地球温暖化が実感できましたが、冬になったら寒い日が多くて、本当に地球は温暖化なのかなと思う日が続いています。今日は、基本計画の重点項目提言書(案)と基本計画(素案)についての検討ということで、どうぞよろしくお願いいたします。



事務局 (和田副主幹)

昨年の5月から基本計画に係る個別の施策について検討してきたものを、提言書という形でまとめてきた。10月28日の検討会で一度見ていただいているが、体系的に整理していなかった部分もあるので、本日最終案をお示しする。重点項目提言書(案)の内容について説明した後に、基本計画の素案についての説明を行う。



2 検討事項

基本計画重点項目提言書(案)について

第8～14回までに検討したもの(これまでの経緯と重点項目等)についてまとめた。基本構想に定めたまちづくりの重点項目(5項目)について、主に事業ごとに意見交換

を行い、内容の検討を行う。

* 資料に沿って説明する。

意見など

）委員

基本構想の人口フレーム38,500人の内訳について、もう一度確認したい。この計画だと、年少人口が325人、生産人口が488人も減る。高齢人口は3,465人も増えることになっている。統計的には、将来こうなるだろうなどは分かるが、生産人口を増やしていかないと税収も減り、年金などの経費もかさんでくる。これは目標ではなく、単なる予測であろうし、逆に生産年齢人口が減っていくという目標は何もしないことと一緒だろう。せめて現状維持、若い世代を一人でも増やしていく目標でないと…。

事務局

この人口フレームについては、庁内でも大変議論をした。高齢人口が増えるこの現象は「超高齢化現象」といい、単純推計（現在住んでる人を基本）にすると、高齢者の比率はもっと上がる。10年後には、47都道府県中30を超える地域では高齢者が30%を超えるという予測が出ている。その点を踏まえて、単純に若手だけが増えれば良いのだが、現実的にはありえないだろうという結論に至った。また、若者の転出率を下げる方策、二男、三男が出て行って帰ってこないという現状を防止する対策を立て、施策増ということで計画人口を設定した。高齢人口を27～28%に下げたいという希望はあるが、あまり極端な数字を挙げてしまうと、高齢者対策の事業部分が要らないということになる。別途ある高齢者プランでは、32～33%に対応した事業を展開しなければならぬということなので、ある程度、今住んでいる人の現状を踏まえ、現実的な増加を図るという目標とした。

委員

さくら市などでは、今実際に子どもの人口が増えている。理由は分からないが、現実的に増えているところがあるということは、そういうことも考えていかないと予測値に収まってしまうのではないかなと。

委員

施策の中で、若者の転出防止対策を盛り込んであるので、それで折り合いが良いのでは。

委員

次の計画で盛り込んでいただければ良いのでは。先程ラジオで聞いたのだが、田舎暮らしを希望するのは、年代別で30代が25%で一番多い。60代は20%ぐらい。若い年代で田舎にあこがれている人が多い。これからの施策で手厚くやっていけば良い。何もない所が、人気がないという訳ではない。

委員

茨城県大子町の「子育て支援でまちを活性化しよう」という記事を見た。まだ始まったばかりで成果は出ていないが、中学3年生までの医療費無料化、保育所幼稚園の無料化、給食費の無料化、子宮頸がんワクチンの定額補助などを実施している。

* 資料（茨城新聞のコピー）を配布

只木室長

来年度から、矢板市でも人口増加策として、市内に住宅を建設する人に補助金を出す事業や結婚サーポーターへの支援などの施策を予定している。とにかく、若者を矢板市から外へ出さないということが大事。

事務局

今回の最終提言については、引き続き市のHPに検討委員会からの施策の提言書ということで掲載したいと考えているが、よろしいか。

各委員 了承



基本計画（素案）について

みなさんからいただいた意見等を参考に、今後5年間で取り組む事業についての基本計画をまとめた。今回の計画は、重点計画と分野別計画の2本立てになっている。

* 資料に沿って説明する。

意見など

会長

素朴な思いとして、教育重視ということは分かるのだが、教育に見合った雇用の場がない。教育すればするほど、人が出て行ってしまうという現況。どうしても、上の教育を受けると職場がない。教育に見合った雇用の場を確保することを盛り込めないか。

委員

企業誘致が出来れば、働く場が確保できて、人も増え、子どもも増え、そこで家も建てるので、まちおこしの起爆剤になる。まずは、企業誘致。

委員

子育て、高齢者世代向けの施策はあるが、その中間層向けのものがない。特に20～30歳代の若い人達の興味を引くような事業がない。実際に働いている若者、現役世代に向けて「安心して暮らせる」などという言葉（事業）が欲しい。さらに「交流の場」等が

あると良い。

事務局

今日お示しした資料等をもとに、来週市民説明会を開き、意見をいただいた上で、最終的に決めていきたい。皆さんから提言いただいたものをベースにはしているが、全ての施策が網羅されている訳ではない。今後、パブコメ等でさらに意見を聞いた上で、詳細なものを組み立てていく。年度内にもう一度お集まりいただくかもしれないので、その時はよろしく願いしたい。

また、この計画に盛り込んだ事業等についての進行管理をするために、来年度以降も年に一回程度お集まりいただければ有難いと思います。

一年以上にわたり、ご協力いただきましてありがとうございました。

案ができましたら皆様に送付いたします。また、2月2日(水)に市民向けの説明会を開催しますので、ご都合のつく方は是非ご参加ください。

会長あいさつ

夜遅くまで、大変ご苦労様でした。「矢板市を少しでも良くしたい！」と思う気持ちは皆同じなので、この計画が出来た後も色々意見を出し合って、良い矢板市を作っていきましょう。お疲れさまでした。